

対談特集 Vol.2

「若手世代と考える原子力」

幅広い視野から有識者のお話しをうかがう対談企画の第二回は、「若手世代と考える原子力」をテーマに、課題の多い原子力を担っていく若手世代として原子力を専攻する研究者、学生の皆さんに座談会形式でお話しを伺いました。聞き手は元日経新聞論説委員の鳥井弘之氏です。

各氏の問題意識を聞く

話し手 羽倉 尚人氏
はぐら なおと
東京都市大学
原子力研究所 助手



学生の時から日本原子力学会の学生連絡会などで様々な活動に携わる。一般企業を経験して、最近では人材問題など重視し活動。主な研究分野は原子炉物理/核データ評価で、二〇一一年には日本原子力学会論文賞を受賞。

話し手 犬飼 健一朗氏
いぬかい けんいちろう
東京都市大学 大学院
共同原子力専攻 修士1年



エネルギーや原子力をめぐる議論のほか、学生との対話企画では産経新聞社賞を受賞。一方、ブレイクダンスなど、歌って踊れる理系男子の一面も。

研究テーマは、直接処分における使用済みMOX燃料の保管廃棄容器の設計。

話し手 北園 孝太氏
きたぞの こうた
東京都市大学 工学部
原子力安全工学科 4年



エネルギーや原子力をめぐる討論会の企画や実践を通じ、みなとともに考える機会作りに取り組む。スポーツは何でも好き。大学からのひとり暮らしで料理の腕もあげた。大学では、核融合-核分裂ハイブリッド炉ブランケットにおける核特性の研究を行っている。

学生のときから、日本原子力学会の学生連絡会などで活動していましたが、若手の議論の場などで特に今後考える必要があると思うテーマが集まり原産協会の地

原子力の今後やエネルギー政策について考えたと思います。日本がここまで発展できたということが、原子力のおかげも必ずあると僕

エネルギー政策に関心があり、今回のテーマに挙げました。日本は、食料自給率は四〇%程度で危機感を持ち、エネルギー自給率は原子力発電

を含めても十数%と主要国では最低水準にもかかわらず、上の人たちだけに責任を押しつけて、でも、気がします。また、その人たちが提案したところについては真っ向から反対し、その反対の仕方、フランスを引いて、「こういう理由で」と

エネ政策と原子力の位置づけ 政策のブレは政治の責任?

Topic

鳥井 皆さんの問題意識のなかで、まずエネルギー政策上、原子力の位置づけについてお話ししたいと思

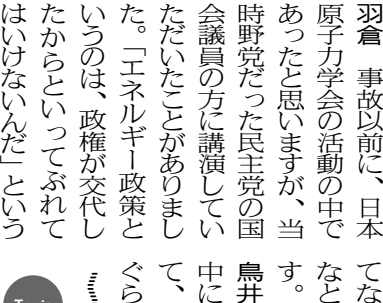
鳥井 政治家も含めて日本社会の多くがそうだったような気がして、まさに好き嫌いでやっていったと思うのです。そのことを踏まえてどうですか。

鳥井 少し関連した話なのですが、政治は人気と権がかわったとしても大きな方針というのは変わらな

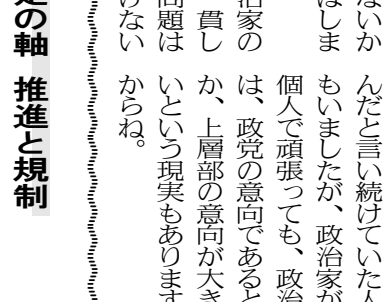
鳥井 なるほど。犬飼 原子力委員会の重要性について自分は完全に理解できていないかもしれませんが、



鳥井 尚人氏



犬飼 健一朗氏



北園 孝太氏

政策決定の軸 推進と規制 「バランスのよい関係」を

Topic

鳥井 原子力委員会の重要性について自分は完全に理解できていないかもしれませんが、政策を決める上で責任もってやるという委員会、政策の軸なら必要だと思

犬飼 原子力委員会の重要性について自分は完全に理解できていないかもしれませんが、政策を決める上で責任もってやるという委員会、政策の軸なら必要だと思

